

会 議 録

会議名	令和８年度 第１回菊川市総合計画審議会
日 時	令和８年７月９日（水） 10:00～11:50
場 所	菊川市役所 東館３階 E301・E302 会議室
出席者	委員 11 名 事務局 5 名 参加者 14 名
欠席者	4 名
議 事	互礼 1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 (1) 令和７年度第２次菊川市総合計画進捗状況報告及び第２次菊川市総合計画総括報告について (2) 令和７年度第２期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告及び第２期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告について 5 その他 (1) 第３次菊川市総合計画について (2) 事務連絡 6 閉会 互礼
議事要旨	１． 開 会 ＜事務局 開会宣言、資料確認＞ ２． 市長あいさつ ○市長 改めて皆さんおはようございます。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。委員の皆様におかれましては、本年度からスタートした第３次総合計画の策定に当たりまして、多大な時間を使っただき、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。また、小泉会長におかれましては、学長に就任されたということで、お祝いをお伝えしたいと思います。また、今後とも豊富な知見と経験により本審議会においてお力添えいただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。 まずは、今日の新聞の中で、リニアの関係についてコメントしましたが、新聞は全部を扱ってくれませんが、こんな思いで言ったところの一環で少しご紹介させていただければと思います。 菊川市は水源 97%、そして農業水、工業用水と大井川の水にほとんど頼っており、大井川の水がなくてはならない、本当に大切な資源であるということをコメントしました。そして、工事中も工事後も現在の水量・水質が恒久的に確保されることが非常に重要なことだとお話しし、着工がゴールではなく、スタートだとお話しました。JR 東海に対しては、これから流域市町との締結を予定しているものがありますので、確認書の内容も確実に履行していただ

き、住民の不安にいつまでも真摯に向き合い、継続的な対応をお願いしたいとコメントしました。確認書の内容の一部ですが、確認書には県の専門家からのお話を経て決定された自然環境保全措置や、モニタリングの確実な履行、そして JR 東海社長から発言があった、流域市町の経済発展や観光振興、地域振興に寄り添っていただき、経済発展や地域振興に資する取組について継続的な対応をお願いしたいという内容になっております。こういったことを国、県と合わせて JR 東海をお願いしていくことになると思います。

少し市政の状況についてお話をさせていただきます。

まず、3月28日に菊川駅の南北自由通路、翌日29日には橋上駅舎が、それぞれ供用を開始しました。構想から約40年、多くの市民の皆様が抱き続けてこられた「駅の南北を自由に行き来したい」という悲願が実現いたしました。また、本事業は市民の皆様をはじめ多くの方々から約1億円に及ぶ温かいご寄附を賜り、大変感謝しているところです。今後も、駅前広場の整備や旧駅舎の撤去などを進め、さらなる利便性向上とにぎわいの創出に努めてまいります。

3月17日には、主要地方道 掛川浜岡線バイパス高橋工区の市施行区間が開通いたしました。小笠地域市街地における南北方向の交通混雑の緩和に加え、中部電力浜岡原発を抱えている菊川市にとっては、災害時に大変重要な道路です。今後も、市民が快適に暮らせる生活環境の整備に努めてまいります。

現在、市役所の敷地内で災害対策本部棟や堀之内体育館の新築工事を進めております。災害対策本部棟は、災害発生時に迅速な初期対応を行い、復旧・復興の指揮を執る防災の中核施設となります。堀之内体育館は、市民の皆様により広域のスポーツ交流の拠点として令和9年5月末の完成を目指し整備を進めている状況です。

近年は、自然災害が激甚化、頻発化しており、先月も上旬には台風6号、そして下旬には7号、8号と同時に接近するなど、防災・減災対策の重要性が一層高まっている状況です。以前から流域治水対策として取り組んできた、菊川南部の田んぼダム、そして岳洋中学校の校庭貯留施設、これも今回、多くの水が溜まり効果を出したと聞いております。さらに、棚草川の遊水地の整備もこれから進めていくという状況です。災害時に迅速かつ的確に対応することができる体制を整備し、市民の皆様が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

近年、どこの町へ行っても一丁目一番地の課題としていますが、少子化への対応が全国的な課題となる中、本市におきましても安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる切れ目のない支援を重要な施策として位置づけております。こうした取組を進める中、本市の婚姻の届出件数が令和7年度は180件となり、令和6年度の147件と比べ大幅に増加していると大変嬉しい数字が入ってきました。そして、本年4月から6月までの出生数が82人となり、昨年度の同時期に比べ10%増加するなど、改善の兆しが少し見られると思っております。

私は本当に期待していて、この数字が今後も伸びていけばと思っております。特に、妊娠を望む夫婦に対する不妊治療費用については、全国トップレベルの支援をとお話してきたところ、相談件数が増え、妊娠率も50%近くだと報告も受けており、良い方向に進んだと思っております。今後も、市民一人ひとりのライフステージに寄り添い、「住み続けたい」「子育てしたい」と感じていただけるまちを目指し、誰もが夢叶うまちづくりを進めていきたいと思っております。

最後に、食料品やエネルギー価格等の高騰により、市民生活や事業者の経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。こうした中、本市では市民の皆さまの暮らしを支える物価高騰対策として、2つの大きな支援事業を実施します。1つ目は、水道料金、基本料金の6か月分の免除です。市民の皆様や市内の上水道契約事業者を対象に実施します。免除月数は県内では最大となります。三島市と菊川市のみが6か月という数字になっているというふうに聞いております。過去、市政懇談会で話しても、知らなかったという声を聞く方がいますので、6か月基本料金を減免するという事をお話ししていただければ大変ありがたいと思います。2つ目は、プレミアム率が100%のプレミアム付商品券事業で、市民生活の支援と地域経済の活性化を目的として、9月1日から販売を開始する予定になります。一世帯5,000円で2セットまでが1世帯で買えるということです。ぜひ使っていただければと思います。市内の経済を循環できるということでも効果があると思っております。

さて、本日は令和7年度の総合計画と総合戦略の進捗状況に加え、昨年度をもって終了しました第2次総合計画と第2期総合戦略の総括報告についてご審議いただきます。今回は9年間にわたる取組の総括となります。委員の皆様には、それぞれのお立場や専門的な見地から忌憚のないご意見をいただき、第3次総合計画及び総合戦略のさらなる推進につなげてまいりたいと思いますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。

3. 会長あいさつ

○会長

先ほど、静岡産業大学の学長に就任と紹介されましたが、よろしくお願いいたします。

先ほど、市長が駅舎ができたというお話がありましたが、これから期待をしているところです。不思議なのが、今、公共事業の建設費が当初より大幅に上回る形で増額変更していますが、菊川市が作った自由通路はあまり金額が上がっていないようで、全国的にもありえない話かなと思っております。

今年は、静岡県が誕生して150周年で、今から150年前の8月21日に、浜松県を廃止して静岡県に統合したという年となります。この時期に大きな変更がありまして、同じ年に塩の道、正式名称は信州街道と言いまして、相良から水窪までの間を県道の正式名称として認定したということです。これが通称塩の道であり、長野県が少し遅れて県道認定をしているのですが、それから2年後の明治11年にお茶の輸出が非常に盛んになったことで、掛川市の大池までを整備し東海道をアクセスするため、信州街道を整備する予算を明治12年の6月県議会に上程したところ、静岡県議会が初めてそれを認めませんでした。なぜかというと、小笠にいた三橋四郎治という県議が認めないと言い、結果的に県議会では、掛川から相良までの予算も6月県議会で増額修正して可決されました。この結果、ここ周辺のお茶が相良港から清水港、清水港から横浜港、横浜港から北米ルートでアメリカへ輸出しました。これによってお茶が日本の輸出の三大品目（生糸、綿花、お茶）となり、外貨を稼いでいきました。

明治25年になると、河城村の人たちが馬を使って流通業を始めました。皆様のご先祖様は、単に農業をやっただけではなく、農業用の馬を使って物流して、菊川のものを長野へ、長野のものを菊川に運んでいました。これから現代の新東名の掛浜線や駅等交通ができましたので、ぜひ新たな手に結びつけていただきたいと思います。

4. 議事

○会長

それでは、菊川市総合計画条例第 17 条により議長を務めさせていただきます。

本日の議題は「令和 7 年度第 2 次菊川市総合計画進捗状況報告及び第 2 次菊川市総合計画総括報告について」、「令和 7 年度第 2 期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告及び第 2 期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告について」を説明していただき、これまでの取り組みについて皆様からご意見をいただき、これを市の方で地域計画の進捗として生かしていただくということをお願いしたいと思います。

それでは、議事 1 の「令和 7 年度第 2 次菊川市総合計画進捗状況報告及び第 2 次菊川市総合計画総括報告について」、事務局から説明をお願いいたします。

(1) 令和 7 年度第 2 次菊川市総合計画進捗状況報告及び第 2 次菊川市総合計画総括報告について」

<事務局説明>

○会長

ありがとうございました。これは総括的な話であり、総合戦略に載っているものが重点的な戦略として位置づけていると思いますので、こちらの方で説明いただいて、進捗状況と総括報告をお願いしたいと思います。

(2) 令和 7 年度第 2 期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告及び第 2 期菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告について

<事務局説明>

○会長

ありがとうございました。それではまず、全体を通じて共通する質問がありますか。

○委員 A

全体的に非常に納得感のある説明だと思いますが、最終年度の評価について、期待値がないということはあると思いますが、同じ B 評価の中でかなり差があります。目標値まであと 10%の指標と、30%足りないという指標が同じ評価というのも、少し厳しいと思いました。30%、10%にこだわらず、例えば、目標値に対して 10%以内までのものは A 評価で良いのではないかと個人的に思いました。変えてほしいという意味ではなく、かなり最終年度について厳しいなという感想です。

資料 3 の 7 ページ。重要業績評価指標 (KPI) ですが、米印の「(目標値の+30%以上のもの)」は「(期待値の～)」ではないでしょうか。

○事務局

7 ページのご指摘のところですが、ご指摘通り訂正いたします。

○会長

各委員よりご意見・ご質問をいただきたいと思います。

○議員 B

資料 1-1 概要版、概要版の資料 1-1 の下降している指標で、「12 歳以下の図書館の年間貸出冊数」が現状値未満になっていますが、総合計画内の「子どもの読書活動を推進します」に「学校図書館との連携を強化します」と記載があります。現状、図書館から学校に月 2 日派遣されています。しかし、子どもが図書館職員にこんな本はありませんかと聞きました。すると職員が、その本は図書館にあると紹介してくれました。子どもたちが読書冊数を増やすためには、学校と図書館がより連携し、月 2 回より増やす取組をしていけば、指標が伸びていくのではないかと感じています。私も本を探していたら図書館職員が声をかけてくれ、学校図書館とつないでくださいました。

○委員 A

全体的に、政策が順調に伸長しているという印象。10 代から 20 代の社会動態が増加したということは素晴らしいと思います。西部地域全体の社会動態については、菊川市在住の方が他市町で働く、または、他市町在住の方が菊川市で働くという分析もされていると聞いています。駅が整備され、これから駅北の開発を進めていくことで、政策が順調に進捗すれば、人口減少を抑制して目標に近づくということは十分可能ではないかと思っています。新しい総合計画やそれに基づく事業を推進していただければという印象を持ちました。

○委員 C

全体を通して、市民にとって住みやすいまちづくりというのが順調に達成されていると感じました。子育て世代や不妊治療に対するサポート等も厚く行っていますが、以前委員 F が、こういった少子化の中でも菊川市の方は子どもを 4 人 5 人産みたいと考えている方が多い。その理由として 2 世帯の家庭が多いからではないかという発言が印象的でした。別の市町が夜まで保育できる施設を整備している中、家庭で愛情たっぷりで育てましようという家庭が多くあるところから、子どもをたくさん産みたいという人が多いことは良いと思っています。家庭で子育てしている世帯に対しても何かサポートがあればと感じました。

分析もされ、成果を見える化されていますが、生成 AI を活用してインフォグラフィックというものを作らせると、今まで以上に質的な面のデータ分析も可視化されるため、(事業の) 背景を生成 AI に学習させ、最終的にインフォグラフィックを使うと別の視点で見える化された分析変化が見えると思います。

○委員 D

資料を拝見して、市のいろいろな取組がわかります。静岡銀行でも地方創生・共創という目標を掲げて、地域の活性化ということを取り組んでおります。具体的な取組としては、ふるさと未来塾の参加とか、各学校への金融教育を行っております。少しでも菊川市に貢献できるように、銀行としてできることをこれからも進めていきたいと思いますので、一緒に取り組んでいけたらと思います。

あとインフラ面では、菊川駅が新しくなりましたが、菊川市、御前崎市の方は車中心の移動手段となってしまうっており、菊川駅を利用する方が少ないと思いますが、(他の場所から来る方が)まずは菊川駅に降り立っていただき、菊川市を知っていただくという取組をしていただけたらと思います。

個人的ですが、市道赤土高橋線を開通したことによって、御前崎市からの通勤がとても便利になりました。

○委員E

菊川市に定着していただきたいという話でいうと、魅力あるまちづくりをつくるための一つとして、飲食店が非常に厳しい状況です。週末は良いと思いますが、昭和の頃のお酒を飲みながらのコミュニケーション方法から変化してきています。若者たちが隣町に飲みに行く状況も含め、若者たちが少しでも他に流れない魅力的なまちづくりを、観光協会として様々な形で力を入れていきたいと思っています。

○委員F

先ほど市長が、菊川の出生率も底をついてきたのではないかと断言していましたが、私はまだ底をついたと確信を持っていないのですが、国の出生数が下がったという中で、菊川市は踏みとどまっていたという印象がありましたが、ここ2、3年は減ってきてしまったと感じています。ただ、婚姻数が上がっているのを見ていますので、1人、2人ではなく、3人を考える人は増えたことと、菊川市に住んでくれる若い方が増えたことが大きいと思います。駅北の開発が進み、若い方が多く住んでくれることを期待しています。JRの菊川・金谷止まりが増えればもう少し住むのに便利になると思います。

○委員G

自分の周りを見ますと、自治会長を務めた際の70世帯から、現在は60世帯ほどになっています。そういう地域が多いです。菊川市の人口は想定より減少を抑制できましたが、中心部は良いと思いますが、中心部以外は人口が減少している状況。こういう地域を支援する政策を進めていただきたいです。

先ほど市長から田んぼダム等の話がありましたが、水位の上昇をどのくらい防ぐことができたのか、以前は浸水した場所が浸水しなかった等の効果を教えていただきたいと思います。

リニアの新聞記事が出ましたが、水質問題が気になります。工事による影響をどのようにお考えなのか、教えていただきたいです。

○委員H

私は企業という立場で資料を見させていただいた時に、政策達成状況の3「活気にあふれる地域の良さを伸ばすまち」の『『企業に活力があるまち』だと思ふ市民の割合』が増加しています。これにつきましては、市内の企業も市役所と協力し、様々な活動を実施した成果もあり、割合が増えたことは、企業にとって非常にとても良かったと思いますし、ありがたいと思っています。ただ、事業者数の目標値を達成してないところと、菊川市にある企業が減

っているところを見ていきますと、寂しい限りだと思います。今年は、菊川市の主導で小笠高校の跡地を新しく用地売買を始めたところに期待しながら、人口が減っていくのはわかりますが、私たち企業としては、企業を誘致していただきながら、ものづくりとしての活力のある菊川市に貢献したいと思います。これからもこのような視点に注視していただきながら、(政策を)進めていただけたらと思います。

○委員 I

資料 1-1 概要版、政策達成状況は 28 の政策、96 施策に対して指標を設けて、評価したということですね。本当にたくさんの事業に対して評価したということで、本当に大変だと思っています。5 番に施策達成状況の上昇している指標、下降している指標の実績値が記載されています。上昇・下降した理由は政策評価シートに書いてありますが、小さすぎて分からないため、上昇している指標の横に上昇した要因、下降している指標の横に下降した理由、これからどう改善していくのかを記載し、概要版で一目で分かるようにしてほしいです。

もう 1 点は、評価指標はどのように決められたのか、今年度から第 3 期の計画が始まっていますが、時代の流れ、変化もあり、住民のニーズも多様化してきています。この指標について見直すことがあったのか、それとも、この指標のまま継続してきたのかを教えてください。

○副会長

委員 I からお話があった関係で、市の人口動向の中で、老年人口ということがあります。現役世代・子育て世代・子どもたちを応援するために様々な政策をすることは大事ですし、企業の方にも頑張っていただきたいというのはもちろんですが、一方で、高齢者も地域あるいは家庭で頑張っています。高齢者が頑張っているところを示すような指標を多く設定していただけるとありがたいです。高齢者は非生産年齢ですが、地域から必要とされている、実際、地域でも頑張っている方々が大勢いますので、高齢者の頑張りをシルバー人材センターだけに任せておくのは本当にもったいない。まちづくり・地域づくりの中で高齢者が頑張っている様子がわかるような指標を 1 つでも 2 つでも多く増やして、それを評価をしていただけると非常にありがたいと思っています。

○会長

高齢者関係について、先日、つま恋で全国の老人クラブ連合会の全国大会研修会があり、私もコーディネーターとして招かれました。菊川市からも参加していただき、全国から 300 人が参加しました。私自身、「老人クラブ」という名称が昭和 38 年に制定された老人福祉法の法律用語だということを初めて知り老人クラブは行政から補助を受けながら活動していることを知りました。老人クラブ数は全国的に減っている一方で、会員数は増えていきますし、平均年齢は 83 歳ですが、たくさん活動している老人クラブもあります。行政活動はどうしても困っていますし、高齢者の方が地域を担っているようにシフトせざるを得ません。老人クラブの方は、自分たちが中心となって活動していますが、彼らは町内会の役員も務め、サラリーマンとしても働いてきた方が多く、人を動かすノウハウをよく知っているなど感じました。酒井副会長からもありましたが、高齢者の方のパワーをいかに主体的に生かすかが重

要です。地域づくりの担い手として位置づけ、その活躍を促している視点も必要だと考えます。

○会長

それでは、皆様から評価いただいている中で、いくつか質問等もありましたので、まとめてお答えいただくようお願いしたいと思います。

○市長

全体としてお答えします。

最後に老人クラブ連合会の話がありましたが、今、私の大学の友人が理事で続けていると思います。

子どもの数の話ですが、可能な限り人口の減少を抑えたいという中で、緩和策に取り組んでまいりますが、転入者数や出生数も影響してくるところです。まちを持続させていくには、人口減少・人手不足等がありますが、先ほどお話しがあった高齢者の方の活躍が必要だと市政懇談会等でお話をさせていただいています。

そして今、様々な政策についてお褒めの言葉やもっとこういうふうにといった話をいただきました。昨年10月21日に、民間の調査で街の幸福度ランキングというものがあり、実際に住んでいる方が答えた2万数千人規模でのアンケート調査という意味では、かなり信憑性が高いと言われている中、静岡県35市町の中で、本市が住んでよかった・住み続けたいという幸福度1位を取ったことは、大変ありがたいと思います。これをずっと継続できることが大事だと思っています。高齢者の健康の話に戻りますが、静岡県全体が全国トップクラスの健康の県だと言われている中、本市も健康のまちということで、お茶を1日4杯以上飲むと、幸せにもつながるということで、お茶が大きく関係があるということを最近浜松医大の調査報告書を見ました。静岡県全体の中でも特に西部地域は日照時間も長く、1年中まちで歩くことができるという意味では、食事や社会参加等が健康なまちにつながっていると思っていますので、引き続き取り組んでいきたいです。

また委員Fから、(JRの)掛川止まりの話がありましたが、これは菊川止まり、島田止まりが多くて、実際は、終電は全部菊川に来ていただいているところです。菊川駅の南北自由通路が距離が長いこともあり、費用がかかったという話も聞きました。

出生数の話は、結婚された方が増え、これから駅の北側も含め開発して住宅地も増えてきますので、期待をしています。

委員Gの人口減少に関してですが、私も出身が内田地区ですし、市の南部の方は出生数が増えず、人が少ないというのは十分承知していますが、市全体的に持続可能なまちにしていくためには、ポテンシャルがあるところに人が動いてしまうということがあると思います。本市はコンパクトな街だと思いますので、人が集まり、ある程度税収が集まれば、様々な政策に取り組んでいけるといいますので、まちを持続させていくことが大事だと思っています。

いただいた質問に関しては、それぞれ担当の方からお答えいたしますが、この幸福度ランキングが1位を取れたといった要因となる取組を継続していけるよう政策を進めていきたいと思っています。

○委員 B

追加の質問があります。「安全で美味しい給食」というところで、指標を残食率としているのですが、安心安全という評価であれば、例えばアレルギー事故があったか、食中毒があったか等のような指標設定が出来ないのかと思いました。

(市の図書館と学校図書館の連携について、学校給食事業の指標について)

○教育長

先ほど委員 B から、市の図書館からの派遣を増やせないかということでお話をいただきましたが、現在、子どもたちの読書時間が短くなってくるという情報をよく聞きます。子どもたちの 1 日の生活の中に 10 分から 30 分でも本を読む時間を取り入れますと、読解力の向上や、生活の張り、活力につながるという検証結果が出ているという状況もあります。それを支える図書館ではありますが、月に 1 回の派遣をすぐ増やすということは難しいです。ただ、図書館司書や学校司書、そして校内の図書館を担当する教職員が、様々な形で連携を取りながら、活用しやすい図書館運営をしていく必要があると考えております。また、電子図書館がありますので、市民の皆様にも使っていただき、子どもたちは Chromebook を持参していてその中から（電子図書館に）使用できますので、十分それを活用していきながら、いつでもどこからでもアクセスができ、本につながっていくという環境を今まで以上に広げていきたいと考えております。アナログ的な部分とデジタルと両方を考えていき、読書に親しめる機会が増えるような効果的な利用方法で進めてまいりたいと考えております。「12 歳以下の図書館年間貸出数」につきましては、電子図書館の貸出数が入っていませんので、その影響があると考えています。

また、「安心で美味しい給食」についてですが、確かに、アレルギーがゼロということは絶対であってほしいという思いは当然あります。ただ、残食率を見ると子どもたちの好き嫌いや、偏食という状況があり、全ての子どもに対して、栄養があり、バランスが取れている給食を提供するというのが一番だと思います。朝夜とそれぞれ家庭で食べてほしいですが、そうではない家庭がある中で、唯一、給食は子どもたちにとってバランスの取れた、栄養価があり、価値のある食事です。そうした中で、まだ残食率が学校によって異なり、十分な栄養が取れていないという課題もありますので、アレルギーゼロを目指すところもあるかと思いますが、現時点では残食率を減らし、子どもたちに美味しく栄養価がありバランスの取れた給食を与えていくというところを目標として考えています。

(流域治水対策の効果について、掛川浜岡線について、駅北開発について、二世帯への支援について、商店街について、元小笠高校用地について)

○建設経済部長

先ほど、田んぼダムの話がありましたが、現在、田んぼダムをやっているのは川上地区内になります。全体計画で言いますと、27.2ha で約 68,000t の水を溜める計算で、現在完了しているのは 1.28ha、約 3,200 t の水を溜めることができる状態です。田んぼダムにつきましては、田んぼに入った水をすぐ排水せず、排水の流速を遅らせるために排水しにくい堰を設置し、少しずつ排水し遊水に流していくという事業です。田んぼダム以外でも、岳洋中学校

の校庭貯留につきましては既に完成しており、校庭全体で約 2,400 t の水を溜めることができます。また、黒沢川につきましても約 34,000m² の用地を買い上げ、約 38,000t の水を溜めていきます。用地買収の方は順調に進み、残り 1 名となっています。今年度は設計を行い、来年度から本格工事に入っていきたいと考えております。

その他、意見をいただいた中で、私の関係するものを説明いたします。

西部地域内での移動が多いということですが、菊川市は掛川市との移動が多く、掛川市の勤めの方、菊川市の勤めの方それぞれの移動が非常に多いことは十分把握しています。掛川浜岡線バイパスは掛川につながる路線でございますので、運動公園からの先を早急に整備を進めていきたいということで、最重要路線として認識をしていますが、まだ事業化ができていない状態であるため、早めに事業化できるように努力していきたいと考えています。

駅北開発についてですが、駅の北側には、昔は旭テックと大きな工場があり、遠鉄の関係の商業施設ができています。現在は、ヨシコンのマンション開発や住宅開発をしていただき、その北側の約 12.5ha を民間で開発整備をやりたいということで、面的整備の準備をしております。現在、土地区画整理事業の準備組合の立ち上げに向けて、令和 4 年から研究会や勉強会を開催し、同意書を集めている段階でございますので、基準値以上の同意書が集まれば、準備組合を設立し、本組合を設立していきたいと考えています。

子育て世帯を二世帯でという話がありましたが、若者定住を目的とした二世帯に対する金銭的な支援として、40 歳未満の家庭が戸建て住宅を建てる場合、中古住宅でも可能ですが、普通一般世帯だと 25 万円補助となりますが、二世帯住宅の場合は 40 万円となります。

商店街、特に空き店舗が出てしまっているという話ですが、なかなか若い人がお酒を飲む機会が減っているというのが現状で、そこをどうクリアしていくかというのは十分課題だと思っていますので、また勉強させていただきます。

小笠高校園場跡地の話について、菊川病院の北側に元小笠高校の茶畑の約 55,000m² の用地があり、昨年度に菊川市が静岡県から購入しました。7 月 6 日に、プロポーザルを実施すると発表し、現在ホームページに掲載しております。55,000m² を造成しますと、約 30,000 m² の平地は確保できるということで、民間で造成していただき、建物を建てて工場にしてくださいという流れで進めてまいりますので、興味がありましたらホームページをご覧ください。

○会長

先ほど委員 I から、次の目標達成状況の公開の時には、上昇、下降した要因を示していくことが必要ではないかというご意見がありました。もう一つ、指標の設定についての質問がありましたので、回答をお願いします。

(評価指標について)

○事務局

まず、指標設定ですが、政策・施策・事務事業という指標があります。今回の基本構想につきましては、政策・施策についてご説明いたしました。政策につきましては、アウトカム指標として、行政活動の成果を示す指標を設定しています。また、施策につきましては、アウトプット指標として、行政活動の結果を示す指標を設定しています。実際にどのような指

標を選定をしたかというところですが、ポイントとして、市がどの程度関与することでその指標が達成できるかという観点、長期的に使える指標なのか、1年だけの指標・統計データではないかという観点、データ収集が難しいと経年変化が確認できなくなることがあるため、データ収集が容易な指標かどうかという観点、また、目標としての根拠が整理できている指標かどうかという観点に基づき、9年前に指標を設定しました。

(指標の)見直しができるかどうかといったご質問ですが、経年変化の観点を踏まえすと、同じ指標で評価していったという形式となっております。また、第3次総合計画につきましては、改めて指標の方を設定いたしますので、それをまた8年間の経年変化を見ながら進捗を評価していきたいと思っております。

○会長

委員Ⅰからいただいたご意見を踏まえて、指標の設定をしていただきたいと思います。
一通り議論いただきありがとうございました。

7. その他

(1) 第3次菊川市総合計画について

<事務局説明>

(2) 事務連絡

<事務局説明>

8. 閉 会

○副会長

大変熱心にご審議いただきまして本当にありがとうございます。これからも「誰もが夢叶う 幸せ創生都市 “菊川”」^{きくかわ}を目指して、皆様からたくさん知恵をいただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はお疲れ様でした。

<事務局：閉会宣言>

以上